

『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

作成年月日	平成20年6月30日
作成部署	建設交通部 河川課

事業名	河川総合開発事業	地区名	船井郡京丹波町下山地先
概算事業費	7,700百万円	事業期間	平成4年度～平成24年度
事業概要	京丹波町水道用水の確保、洪水被害の軽減、流水の正常な機能の維持を目的とした多目的ダムの建設（堤高34.0m 堤頂長87.75m）		
目指すべき環境像	畑川ダム周辺において100種以上の重要種が確認されており、ダム事業地および周辺に生息・生育する動植物への影響を軽減し、必要なものは保全対策を実施する。		
関連する公共事業	国道27号バイパス整備（国土交通省主体）		

	評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
	主要な評価の視点	選定要否			
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO <sub>2</sub> 排出量等)	—	事業地周辺には多種多様な野生生物が生息している。京都府レッドデータ種も含まれている。また、河川は流すだけでなく、土砂を遮る役割も果たしている。そのために、保全対策が必要となる。	有識者による「畑川ダム環境保全検討委員会」の設置、希少な野生生物の生息地への影響を受け、保全対策を実施する。また、ダム設置により、下流への土砂供給量が減少し、河床堆積土の粗粒化が進む可能性があるため、委員会の指導を受け、保全対策を実施する。	—
	地形・地質	○			3
	物質循環（土砂移動）	○			3
	野生生物・絶滅危惧種	○			4
	生態系	○			4
	その他	—			—
生活環境	ユニバーサルデザイン	—	事業地周辺地域の水道水源は地下水や溪流に依存しているため、環境影響を受けやすい。また、この地域の改善を図る必要がある。	ダム整備により、地域の湧水・洪水被害を防ぎ、流水の正常な機能の維持を図る。また、ダム貯水池の水質が悪化する場合は適切な処置を行う。中には、工事機械の騒音・振動の低減を図ることも、発生する土は極力現場内利用や再利用に努める。	—
	水環境・水循環	○			4
	大気環境	—			—
	土壌・地盤環境	—			—
	騒音・振動	○			3
	廃棄物・リサイクル	○			4
	化学物質・粉じん等	—			—
	電磁波・電波・日照	—			—
	その他	—			—
地域個性・文化環境	景観	○	当該地区周辺は典型的な里山地域であり、酪農が盛んな地域でもある。ダム及びダム湖周辺は周囲の環境に合わせ、水辺環境の創出を図ることが必要である。	周辺の景観に馴染むようにダム整備を行う。ダム周辺の環境保全を図るため、地元住民による清掃活動が自発的に行われている。	3
	里山の保全	—			—
	地域の文化資産	—			—
	伝統的行祭事	—			—
	地域住民との協働	○			4
	その他	—			—